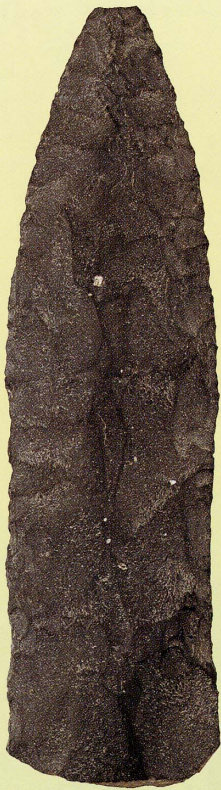


一宮市  
博物館  
だより

No.31 2002.10



梶子北遺跡出土サヌカイト製打製石剣  
(浜松市博物館所蔵)



朝日遺跡出土サヌカイト製打製石剣  
(愛知県教育委員会所蔵)



【秋季特別展】

# 川から海へ1

一人が動く・モノが運ばれる

一宮市は木曾川の形成した扇状地から沖積低地にいたる濃尾平野の東北、根本に位置しています。現在では河川の流路も管理され、従来のような水害・悪水に悩まされることも少なくなりました。しかし、この驚異でもある「流路」「水」は水田の稲や畑の野菜を育てるための大切な水源であり、木曾ヒノキの筏による流送、大船による丸石や常滑焼の流通に象徴されるように、近代まで物資運搬のための高速道路の役割を果たしてきました。早く多くのものを運ぶことを可能にした水辺の利用は、人の動きをより活発化させたと言えます。

人は自然環境を利用しながら道具を作り、そして自分たちのみで使うのではなく、交換したり、あるいは威圧の贈与物として贈るなどして、モノを流通させてきました。その様子をすべて復元するのは不可能ですが、地中に埋まって残されたもの(考古資料)、書かれた文書(文献資料)、伝わった伝承・民具の形(民俗資料)によって、推測していくことができます。

今回の展示では、まずは弥生時代を中心とした伊勢湾に焦点をあて、モノを作り運んだ「人の活動の痕跡」を追っていきましょう。

## 「痕跡」を語る出演者たち



浜松市梶子北遺跡出土  
サヌカイト製打製石剣  
(浜松市博物館所蔵)



田原本町唐古・鍵遺跡出土曲柄鏃  
(田原本町教育委員会所蔵、奈良県立橿原考古学研究所保管・写真提供)



鳥羽市白浜遺跡出土鹿角製固定銃頭  
(財)海の博物館所蔵



八尾市恩智遺跡出土壺  
(八尾市教育委員会所蔵)

姫路市八代深田遺跡出土円窓付土器  
(姫路市教育委員会所蔵)



渥美町大本貝塚出土多孔銅鏃  
(渥美町教育委員会所蔵)



大垣市荒尾南遺跡出土船線刻土器  
(岐阜県教育委員会所蔵、財)岐阜県文化財保護センター写真提供



神奈川県指定重要文化財 綾瀬市神崎遺跡出土壺  
(綾瀬市教育委員会所蔵・写真提供)



八王子遺跡出土銅鐺  
(愛知県教育委員会所蔵、愛知県埋蔵文化財センター写真提供)

催し物

### 親と子どものための展示説明会

○11/16(土)、23(土) 両日ともに午前11時から

同時開催

### 一宮市博物館講座『尾張平野を語る7』川から海へ1-人が動く・モノが運ばれる-

- 11/ 3(日)「考古学者は何をしてきたのか」 奈良大学文学部教授 酒井 龍一氏
- 11/17(日)「分業と流通から見た弥生社会」 芦屋市教育委員会文化財課主査 森岡 秀人氏
- 11/24(日)「伊勢湾激動期の生産と流通」 (財)愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センター主査 赤塚 次郎氏

3日間ともに午後1時30分から

会場●一宮市博物館(妙興寺公民館) 定員●各回先着150名/聴講料無料 ※詳細は博物館までお問い合わせ下さい。

特別展開催期間

10月26日(土)



11月24日(日)



# 子どものための尾張歴史講座

～体験！考古学～

8月3日(土) 〇入門！考古学

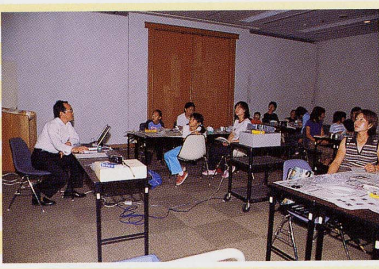
第二回目では、「遺物の接合・復原」と「拓本採り」に挑戦しました。

「遺物の接合・復原」では、実際に割れた陶磁器の茶碗や皿などをセメタインで接合し、しばらく乾燥させた後、粘土で型を取り、石膏による部分的な復原を行いました。「拓本採り」では、平瓦の表裏面の拓本を採っていただきました。教材には、表面に布目痕、裏面には縄タタキ調整のある、伝法寺魔寺出土の平瓦を使用しました。

各親子とも懸命に作業に取り組んでもらい、それぞれ満足の表情で、復原した碗皿や拓本を持って帰っていただきました。出土遺物の整理過程の一部ですが、実際に体験してもらうことで、考古学を身近に感じてもらえればと思います。

最後に「考古学をやりたくなくなった人はいませんか？」と聞いたところ、全く挙手がありませんでした。担当者としてはちよつとショックでした。

- ◆時間◆午後時三十分～四時
- ◆講師◆学芸員 土本典生
- ◆参加者◆八組



たぐんぶんけん、せつごうは、とてもいいんでいっばいしてました。だけどはじめやしたことだ、たのびたのしかたし、あまりできないことができたのうれしかった。また、こんなことができるの、たのびたいです。



8月10日(土) 〇石器を作る・石器を使う

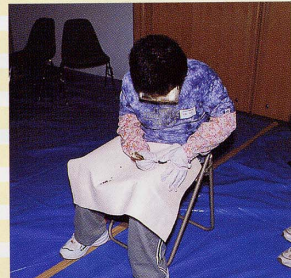
愛知県教育委員会主催「弥生学習講座 出前博物館」の一環として実施したもので、下呂石を材料とした石鏃づくり、石包丁を作る作業を体験しました。

まずは、説明を聞きながら、遺跡から出土した石器を手にとってみました。そして、打製石器である石鏃を作ってみました。小さく割った下呂石を、鹿の角を使ってぎゅつと押す作業はとても難しそうでしたが、子どもたちの真剣な眼差しが印象的でした。

次に、片岩を砥石を使って磨くという作業を体験しました。打製と磨製の違いを、理解することができたのではないかと思います。

家に帰って、作った石器で料理をしたというお手紙をいただき、「石鏃では切れないかも…。」と思いつつも、その愛着ぶりを少しうれしく思いました。

- ◆時間◆午後三十分～四時
- ◆講師◆愛知県教育委員会 生涯学習課文化財保護室 学芸員 野口哲也さん 原田幹さん
- ◆参加者◆十四組



石器作りを終えて  
下呂石よりコクヨ石の方が作りやすいと聞いていたので、コクヨ石で作った。どうやら、石を割る、ていどいかに石を割る、説明して石を割る、図に書いておくとわかりやすかったです。  
石を割る時も、どういふ形の石を磨くと作りやすいかも、最初に教えてくれた。という作る石器は、たいがい思いどおりにできて楽しかった。



8月24日(土) 〇布を編む・織る

縄文時代の布を編む作業と、弥生時代の布を織る作業を体験しました。両方を経験することによって、両者の効率性の違いや、作業姿勢による疲労の違いなど、体感することができたのではないかと思います。

まずは、縄文時代の人々が編んでいたと思われる布づくりをしました。二回、目を編む作業によって編み上がりつつは、単純でわかりやすいのですが、十センチの布を作るだけでも、ずいぶん時間がかかります。弥生時代の方法では、織るのは簡単なのですが、下準備に時間がかかることに皆気がつきませんでした。

一日で両方の作業をするのは非常に大変で、腰の痛みと闘いながら、最後まで飽きることなくやり遂げた姿に、主催した私たちは感銘しました。

- ◆時間◆午前十時～午後四時
- ◆講師◆学芸員 久保領子
- ◆参加者◆十四組



縄文式はセットのしかたが、かんたんだけれど、糸をあるのには、時間もかかる。弥生式は、なすもんじきより、おなじ時間、いまいまることが、できるけど、セットのやりかたが、たかして、いかに、おもしろいかな。また、いかに、あたら、ちや、せん、よう、し、思、ぬ、の、を、ま、る、か、は、よ、て、も、た、い、ん、た、ん、な、は、き、か、い、が、す、く、に、作、り、ま、う、け、ど、昔、は、ま、く、苦、勞、し、て、作、り、た、こ、こ、が、わ、か、た、。 横山 瑛子





4月27日～5月26日

企画展 「猫島遺跡－弥生時代のムラ－」

1999年から2000年に、(財)愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センターによって実施された名神高速道路下り線の一宮パーキングエリア建設関連の発掘調査で、千秋町塩尻の猫島遺跡で、弥生時代中期のひとつの集落(ムラ)の全容がほぼ解明できるほどの調査成果が得られました。現在、遺物整理作業が進められていますが、今回の展示では、この猫島遺跡から出土した、弥生時代の遺物を中心に展示し、当時のムラの様子や、人々の暮らしを出土遺物から考えるものです。

“猫島ムラ”は、環濠と呼ばれる溝に囲まれた弥生時代のムラで、環濠に囲まれた区域の中に人が住み、環濠の外では、墓地や水田が検出されています。

展示資料数は、弥生時代の柱根、土器、石器など、当時の生活を窺わせるものや、古代の人形(ひとがた)と呼ばれる木製品1点、陶器27点など総計200点余となりました。

展示室の床面には、大型掘立柱建物のプランを実寸で配置し、検出された2本の柱根を水付けのまま水槽に入れて展示しました。

また、講演会も2回開催し、実際に発掘調査を担当され、遺物の整理を行っている(財)愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センターの調査研究員の洲崎和宏さんと蔭山誠一さんから最新の情報も含めてお話を伺いました。



猫島遺跡展



講演会

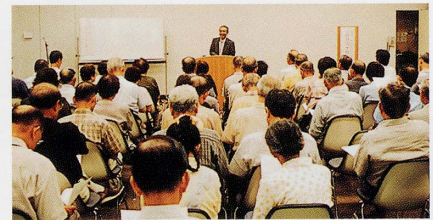
7月20日～9月1日

夏季企画展 明治の文雅 ～森春濤をめぐる漢詩人たち～

学校教育の方針も次第に変わり、また、ワープロの急速な発達によって、最近では漢字文化の危機が叫ばれています。ましてや漢詩は、日本では明治30年頃をピークとして衰退に向かい、現在は愛好者・研究者によってかろうじて灯を繋いでいる状況です。当館において、本格的に漢詩を扱った展示会は、平成5年2月に開催した「漢詩人・森春濤の遺墨」で、それから9年半の歳月が流れました。今回、会期中に2,037名の方のご来観をいただきましたが、以前に比べてそれほど減少していません。数字のみを以て一概には申せませんが、漢詩講座や詩吟の会のみなさんの活動は盛況だと聞き及びますので、まだまだ期待がもてそうです。また、7月28日に南山大学名誉教授山本和義さんを招いて開催した講演会「森春濤・槐南と明治の文雅」には80名余の受講者があり、8月18日に行った展示説明会には50名の参加がありました。多くの方がメモをとりながら真剣に耳を傾けておられ、そうしたみなさんの熱意には勇気づけられる思いがいたしました。



明治の文雅展



講演会

9月13日～9月29日

ギャラリー展 2002 一宮美術作家協会 新展

一宮美術作家協会の協力により、博物館ギャラリー、展示室4、ラウンジにて、一宮を中心に活躍する美術作家33人の清新な制作活動を発表しました。日本画・洋画・彫塑・デザイン・工芸、各分野にわたる力作を展示したものです。10月には「一宮写真協会7人展」、「一宮書道協会 一宮市美術展 平成の市長賞受賞作家展」とそれぞれの協会の協力を得て、新たなギャラリー展も開催の予定です。今後とも、従来の特別展・企画展と並行しながら、このような展示活動も行っていきたいと考えております。



一宮美術作家協会新展

8月4日

寄託資料などの展示 島村文化財展

市内北部、島村地区にゆかりある歴史資料を展示した『島村文化財展』(若栗神社八幡宮・島音楽保存会主催)が、島村公民館において開催されました。同所に伝わる人形芝居島音楽(市無形文化財)で使用される人形(市有形民俗文化財)・道具類一式、及び若栗神社八幡宮(島村字南裏山)の所蔵資料約20点が展示されました。

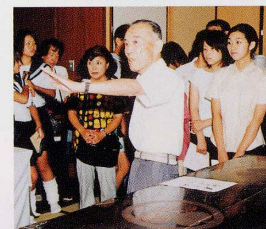
島村は、信長・秀吉などに仕え、最後は尾張藩士となった兼松正吉が拠点とした地ですが、若栗神社八幡宮には、「紙本 著色 兼松正吉画像」・「若栗神社八幡宮奉納刀」(ともに市有形文化財)、「金時絵 葵紋付長持」など兼松家・尾張徳川家にまつわる奉納品が残されています。

そのほかにも、同社には、境内出土品など様々な資料が伝えられていますが、その多くは平成2年以来一宮市博物館に寄託されています。

今回、久しぶりの里帰りとなったわけですが、終日、展示会場は大変多くの方々で賑わいました。



展示会場の様子



島音楽の解説



7月31日～9月11日 (10～12日間)

## 博物館実習

博物館では、学芸員資格の取得を目指す8名の大学生を受け入れ、実習を行いました。

学芸員とは、資料の収集や調査、展示などを行う博物館の専門職員のことで、博物館法に定める資格を必要としています。一宮市博物館では、「考古」・「民俗」・「歴史美術」の各分野に分かれて、学芸業務の実習を行っています。また、受付や展示室監視といった施設管理的な業務についても体験をしてもらっています。

### 考古部門

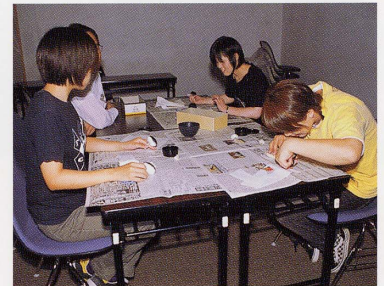
考古部門では、遺物の水洗・注記・実測・写真撮影・図版割付・図面トレースなど、出土遺物の整理過程をたどりました。そして普及活動の一環として尾張歴史講座の実技指導も体験してもらいました。また、フィールドワークとして、浅井町にある千部塚古墳の測量調査も行いました。2名の受講者は、いずれの作業にも熱心に取り組んでくれました。また、古墳の測量作業では、35℃を越える猛暑の中にもかかわらず、測量図を完成することができました。感謝。(土木)



出土遺物の観察

### 民俗部門

民俗部門では、夏の子ども向け講座実施補助を中心に、博物館実習を行いました。学芸員の仕事を講義として聞くこと、研究室で専門分野の資料を操作することは、大学において経験可能なことです。実習館では学ぶことより、実際に来館者を目前にして、あるいは資料を目前にして仕事の流れや方法を体感して欲しいと考えています。その点で、今回は実習を通して専門外の民俗・考古の両分野に触れ、また普及活動の一端を経験できたことにより、将来多少なりとも役立つことを願っています。(久保)



講座の前の勉強会

### 歴史・美術部門

歴史・美術部門では、基本的な技術の習得を目的とした実習(歴史資料や美術工芸品の取り扱い、写真撮影の方法)と並行しながら、茶道の体験や、常設展示の一部展示替え、公民館での文化財展、企画展の撤収作業などを体感してもらいました。展示替え作業では、各々が自ら考え、そして、皆で協力しあうことによって、限られた時間の中で完成することができました。実習生の皆さん、お疲れ様でした。(毛受・岩井)



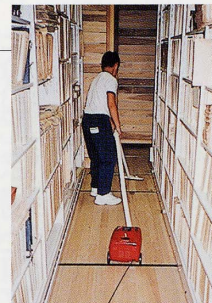
軸を扱う

茶道の体験

8月1日、8日、21日

## 中学生職場体験学習

昨年度から一宮市教育委員会(学校教育課)では、一宮市立中学校在籍の中学生を対象に、地域に学ぶ「中学生職場体験学習」を実施しております。それを受け、博物館においても、今年度上半期には3回の受け入れを行いました。毎回、約3時間程度のプログラムで、前半は、受付・監視業務、後半は、寄贈図書類の整理(8月1日 市立大和南中学校2名)、書庫の清掃及びデジタルカメラでの資料撮影(8月8日 市立今伊勢中学校4名)、常設展示室展示ケースのガラス拭き(8月21日 市立大和中学校5名)を体験してもらいました。博物館では、今後とも内容の充実を図り、より多くの子ども達に博物館への関心を持ってもらいたいと考えています。



書庫の清掃



展示ケースの清掃



平成十四年二月二十二日

妙興寺(市内大和町妙興寺) 所蔵絵画二点を市文化財に指定

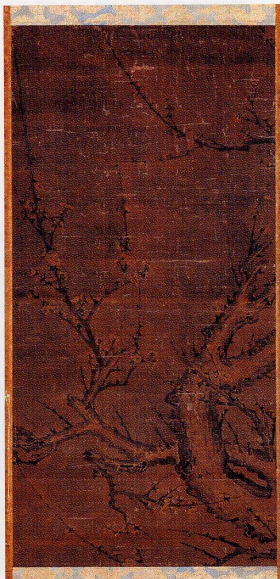
絹本墨画月梅図

梅を題材にした水墨画は、中国北宋時代末に創始され、南宋に揚補之(一〇九七〜一一六九)が傑出し、元時代には王冕(一二八七〜一三五九)の人氣が高かった。それら中国宋・元時代の墨梅画は、鎌倉時代中期以来さかんに日本へ伝えられ、特に室町時代の禅林社会で高く評価されていた。

本図のことは、文政三年再刻の『妙興報恩禅寺霊仏霊宝目録』に収載され、妙興寺において永らく揚補之の筆として伝えられてきたが、作風は明らかにそれとは異なるものである。このことは、後世の人が権威付けのために付したものであろう。しかし、素朴で丁寧な描写は宋代の様式を継承するものであり、その制作はおそらく元時代中期を降らないであろうと考えられる。

さて、本図に描かれているのは白梅であるが、花弁を輪郭でくくったものではなく、花弁の部分塗り残しながら背景全体を淡墨で塗り込め、しかも梅幹を白抜きに描いていることから、月光が梅を照らし出す様を表した月梅・夜梅と称される墨梅図である。画面全体が黒ずんでみえるのはそのためであろう。元来、もっと大きな画面であったのを切りとったような印象があり、かつては落款が付されていた可能性も否定できない。

絹本墨画。縦九三・二cm、横四五・六cm。



絹本墨画月梅図

薬師三尊十二神将像

六角宝座上の蓮台に結跏趺坐し、左手に薬壺を奉じ右掌を正面に向ける薬師如来を中心に、画面向かって右に日光菩薩立像、左に月光菩薩立像、さらに十二支を頭部に戴いた着甲の十二神将が、画面右上部より子・丑・寅・卯・辰・巳と降り、左下部より上に午・未・申・酉・戌・亥と配して描かれる。

十二神将は薬師如来の眷属で、十二夜叉神将、十二薬叉大将とも呼ばれ、薬師如来の十二の大願に応じて現れる薬師の分身であるという説もある。薬師十二大願を護持するとともに、昼夜十二時、絶えず衆生を守護するといわれ、十二の数にちなみ子・丑などの十二支をそれぞれに配することも行われた。十二支獣を冠中表示するのは平安時代以降一般となったが、元来、神将は十二支とは関係はなく、十二という数がたまたま十二支の数に合致するためか、後世これが結びついたらしい。

本図の、蓮台から大きく垂れる薬師如来の衣の表現などは宋風絵画を強く意識したことがうかがえる。また、鼻筋の太いどちらかといえば鈍重な面貌表現や、目の粗い絹本が使われていることから室町時代の制作と考えられる。制作者は不詳。

絹本着色。縦八七・七cm、横三八・三cm。



薬師三尊十二神将像

平成十三年八月二十一日

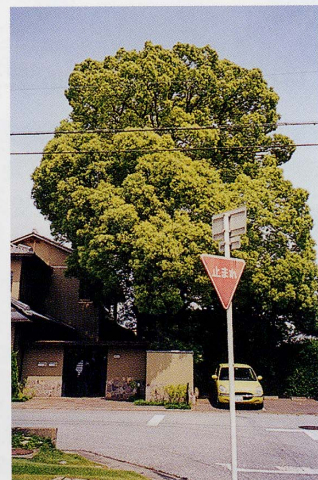
クスノキ(市内あずら一丁目)を天然記念物(市文化財)に指定

クスノキは本州、四国、九州の暖地に多く見られるが、本来の野生かどうかはわかっていない。一説には中国から来たものとも言われている。五〜六月頃、淡黄色の花が咲き、それが秋冬には、光沢のある紫黒色の果実になる。

本樹は樟風苑と名付けた庭園の入り口近くにあり、道路からもよく見える。幹からは十数本の太い枝が周囲に伸び、葉はうっそうと茂り樹勢の良い巨木である。庭にはかつて三本あったというが、現在は伐られて、最後に残る一本として、大切にされている。

市域での、クスノキの指定は、蓮浄寺(市内大字佐千原字屋敷)のものに次ぎ二例目で、今年度の指定により、文化財の件数は、計一九〇件(うち国指定一五件、県指定三〇件、市指定一四五件)平成十四年十月四日現在となった。樹齢 推定約二〇〇年、高さ二〇m、胸高囲三・六五m、枝張り東西一六m、南北一〇m。

あずらのクスノキ





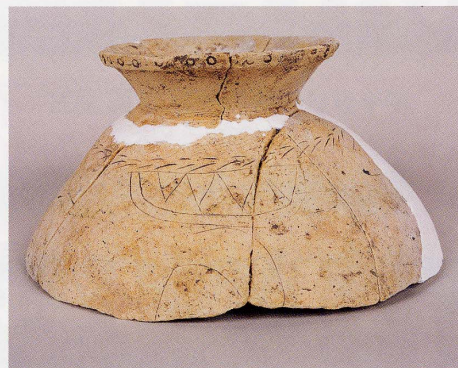
## 元屋敷遺跡出土の線刻土師器

一宮市丹陽町に所在する元屋敷遺跡は、昭和36年に土取り工事により発見・調査された遺跡で、弥生時代前期の溝と、古墳時代前期の竪穴遺構が検出され、出土した土師器群は元屋敷式と呼称され、長く東海地方の古墳時代前期の標識遺跡とされてきた。土地区画整理事業に伴い、平成7年、8年に実施した事前調査で、約9,000㎡の発掘調査を行ったが、この線刻土師器が出土した遺構は、住居跡と考えられる短辺6m×長辺9.4mの方形の土坑で、この遺構の中央部で検出したものである。

線刻が施された土器は、口径13.8cmの壺型土器の上半部で、下半部は欠失している。尾張平野の土師器編年の廻間Ⅰ式期末からⅡ式期初頭の土器で、3世紀中頃に比定されよう。

線刻された図象は、鹿と推定される四本足の動物、丸木船と推定される船、そして欠失した部分にもう一つの図象が描かれていたようである。鹿は、耳の後方に角を水平に描いており、雄鹿と考えられる。線刻絵画に見られる動物には、鹿、猪、鳥などがあるが、鹿が半数近くを占める。鹿の角に象徴される再生力を表現したものであろうか。また船は、胴部側面を鋸歯状で飾っている。船の絵には両側面に櫂を表現した構造船を描いた例が多いが、本例には櫂の表現は無い。

こうした線刻土器は、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺跡から出土するが、破片資料が多く、その全体像を窺える資料は少ない。元屋敷遺跡出土のこの壺型土器は、線刻された絵画が有する物語性を考える意味でも貴重な資料といえよう。(土本 典生)



…が船で…



鹿が…

名称 **溪山訪友図** 作者 **蓑虫山人** (1836~1900年)

制作年 1800年代後半(明治初期~中期)

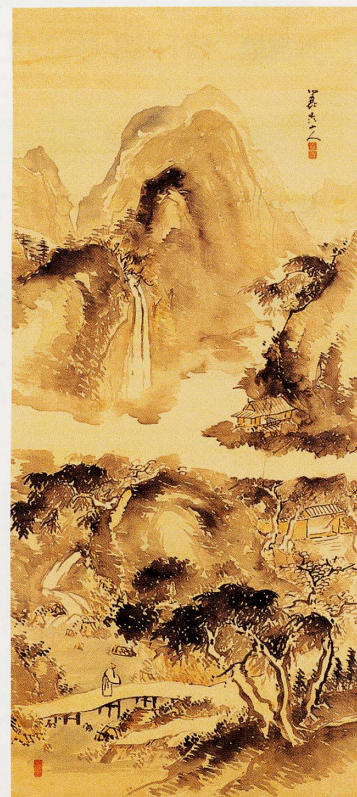
技法・材質・形状 絹本墨画淡彩軸装

寸法 本紙 116.8×51.5 cm

落款 「蓑虫山人(印)」

平成11年度購入

筆者の蓑虫山人は、美濃国安八郡結村(現岐阜県安八町)出身、本名土岐源吾。1877年(明治10)頃から東北地方を放浪して名勝旧跡を訪ね、亀ヶ岡遺跡・長者屋敷遺跡発掘状況を報告するなどして、61歳で帰郷。その際持ち帰った考古遺物を陳列し民衆に講義したことが伝えられている。以後濃尾各地に寄寓、最後は名古屋の長母寺に至り、同所で没した。当地では、1899年(明治32)7月、実姉が住職を勤める丹羽郡浅淵村(一宮市大字北小淵)の大慈寺に逗留し、大演説会を催し聴衆に日本国体の趣旨について数日熱弁をふるったと伝えられている。また、同年秋に同郡徳波村(同大字西大海道)の谷兵三郎居宅を訪問した。その模様は長母寺蔵「漫遊日記」に記されている。飄逸な人物画が親しまれているが、その師を明らかにしていない。一説には長崎の日高鉄翁という画僧に学んだとされ、本格的な作品も数多く残している。本図は南画風の山水図で、絵師としての確かな力量を伝える作品である。彼の描いた絵は、幕末・明治期の文人気質、禅的雅趣を色濃く伝えている。(毛受英彦)



溪山訪友図

〔参考文献〕安藤直太郎著『蓑虫仙人』(1967年)、高橋哲華著『かくれたる勤皇の志士蓑虫山人』(1967年)、横井吉助・山本等著『蓑虫山人絵日記(東海編)』(1980年)、服部徳次郎著『愛知画家名鑑』(1997年)



# 平成14年度下半期催し物のご案内

10月2日(水)から10月14日(祝)

**ギャラリー展 一宮写真協会 7人展** 於：博物館ギャラリーほか

10月17日(木)から10月31日(木)

**ギャラリー展 一宮書道協会 一宮市美術展 平成の市長賞受賞作家展** 於：博物館ギャラリーほか

10月26日(土)から11月24日(日)

**秋季特別展 「川から海へ1 -人が動く・モノが運ばれる-」** 於：博物館特別展示室ほか

11月1日(金)

**第38回 市民文化財めぐり** 於：真清田神社・長隆寺・檜の木文化資料館ほか

12月7日(土)から12月23日(祝)

**冬季企画展 2002 一宮市現代作家美術秀選展** 於：博物館特別展示室ほか

1月11日(土)から2月23日(日)

**収蔵品展 暮らしの道具 ~今と昔~** 於：博物館特別展示室ほか

3月2日(日)から3月16日(日)

**作品展 第14回 手つむぎ・染め・織り展** 於：博物館特別展示室ほか

3月1日(土)、2日(日)、16日(日)

**博物館講座 はにわをつくろう** 於：博物館講座室ほか

3月23日(日)

**民俗芸能公演 島文楽・宮後住吉踊** 於：博物館講座室ほか



**一宮市  
博物館  
だより**

第31号

発行日……平成14年10月4日  
編集・発行……一宮市博物館  
制作……ヨツハシ株式会社

## ●● 利用案内 ●●

名鉄名古屋本線「妙興寺」駅下車徒歩7分  
〒491-0922 愛知県一宮市大和町妙興寺2390  
TEL 0586-46-3215 FAX 0586-46-3216

【常設観覧料】(特別展の場合は別途定める。)

一般=200円(160円) 高・大生=100円(80円)  
小・中生=50円(40円) \*( )は20人以上の団体料金

【休館日】毎週月曜日、休日の翌日、年末年始(12月28日~1月4日)

【開館時間】午前9時30分~午後5時(入館は4時30分まで)

※土曜日は小・中学生無料。(長期学校休業日および休日はのぞく)

※満65歳以上で、一宮市発行の「シルバー優待証明カード」

あるいは「老人医療費受給者証」持参の方は無料。

【HP】<http://www.city.ichinomiya.aichi.jp/kyoiku/hakubutukan/index.html>

